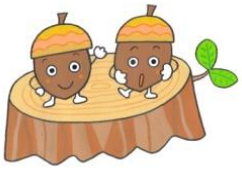


子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0082 東京都大田区池上１－３－４　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net　　mailto:info@kodomono-mori.net

ＪＰ子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2020年10月号）

ＪＰ子どもの森づくり運動とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の１枚＞

先月号でご紹介した京都の「ときわ幼稚園」さんから、
平成25年から園庭で育てた“どんぐり”の木の写真が送られてまいりました。
「毎年幼稚園内（園庭）で、どんぐり拾いをしています。」とのことです。
運動が根付いた一つの事例として感動しています。

（目次）

１．【参加者募集】ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」
２．【動画募集】「保育防災アクションマイスター認定講座」防災活動事例動画ご提供のお願い
３．【活動レポート】ＪＰ子どもの森づくり運動【WITHコロナ】秋の活動
４．【事務局からのお知らせ】「東北復興グリーンウェイブ2020」東北のどんぐりを拾って届ける活動中止
５．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2020年10月号）

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「ＪＰ子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」運営体制

・運　　営　：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
・特別協賛　：日本郵政グループ
・主な後援/協力/連携団体

（公社)全国私立保育園連盟　　ＮＰＯ法人　Ｃ・Ｃ・Ｃ富良野自然塾
（公社）大谷保育協会　　（公社）こども環境学会
保育環境研究所ギビングツリー　　国際校庭園庭連合日本支部
（公社）国土緑化推進機構　　（一社）日本森林インストラクター協会

１．【参加者募集】ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」

ＪＰ子どもの森づくり運動参加園の保育者と保育関係者が、より良き保育づくりを目的に情報交換と交流を目的に集う「**全国集会＆研修会2021」のご案内です。**今回は、コロナ禍の子どもたちの外遊びや体験活動について協議したいと思います。どのような状況でも、子どもたちがのびのびと遊ぶ権利は保障されなければなりません。そのための知恵を出し合う機会としたいと思います。
ＪＰ子どもの森づくり運動が、2020年度から取り組んで来た**「園庭緑化運動」**の成果発表と**「保育防災アクションマイスター認定講座」**の概要**説明**も行います。コロナ禍の事情で会場参加者数が限られています。早めのお申込みをお薦めします。

１．日時：**2021年2月17日(水)、18日(木)10時～17:00（２日目16:00）**
２．会場：**「大田区産業プラザPIO」**東京都大田区南蒲田1丁目20-20
３．主催：ＪＰ子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2021」実行委員会
４．共催： 国際校庭園庭連合日本支部
５．特別協賛：日本郵政グループ
６．後援：（公社）こども環境学会
７．協力：（公社）全国私立保育園連盟　（公社）大谷保育協会
　　（公社）国土緑化推進機構　保育環境研究所ギビングツリー、他
８．募集対象者（数）：保育園、幼稚園、こども園職員、及び保育関係者
　１）会場参加募集者数：30名（先着順）
　２）リモート（ZOOM）参加者数：制限なし

【基調講演】
～こどもの成育環境とコロナ禍～
（公社）こども環境学会
代表理事　仙田　満氏

*詳細・参加申し込みは、別紙、募集チラシをご覧下さい。ホームページからもお申込みいただけます。

２．【動画募集】「保育防災アクションマイスター認定講座」防災活動事例動画ご提供のお願い

保育の最前線で活動する保育者にとって、もっとも参考になるのは他園におけるリアルな防災活動事例です。そのため事務局では防災アンケートに続き、全国の参加園で取り組んでおられる防災活動の動画を募集し、認定講座の教材・課題として活用させていただければと思います。下記の募集要項で、貴園で実施されておられる防災活動の動画をご提供いただけますようお願い申し上げます。なお、お送りいただいた事例動画は、一部、公式ホームページにおいて参加園限定でご紹介させていただく予定です。

＜防災活動動画募集要項＞

１）認定講座の内容は、**①事前準備・初動体制　②情報収集・安否確認　③消火・救助救出・応急救護　④避難訓練　⑤地域や保護者との連携　⑥食料等の備蓄**の６つのカテゴリーによって構成されます。保育防災事例動画も６つのカテゴリー別にお送りください。（1カテゴリー複数活動、あるいは複数カテゴリーでのご提供も歓迎です。）
２）撮影は、携帯・スマートフォンベースで結構です。必ずしも実活動時のものである必要はなく、防災ご担当者が案内役として貴園で取り組んでおられる防災活動をご紹介いただき、メール添付にて事務局（info@kodomono-mori.net）までお送り下さい。（メールでの送信が難しい場合は、LINEなどでの送付も可能です。その際は事務局までご一報ください。）
　＊1活動につき、**2分30秒程度**のサイズでお送りいただけると助かります。
　＊動画がサイズに収まらない場合は、分割（その１、その２）してお送り下さい。
　＊動画が届きましたら、返信で「受取済」の連絡を送らせていただきます。連絡が届かない場合は、お問い合わせ願います。
３）お送りいただく際のメール文に、①貴園名　②撮影日　③該当するカテゴリー名　④撮影いただいた活動の特徴やその仕組みとなった経緯等について、短くご記入願います。**第一次募集締切りを11月30日(月)とさせていただきます。**
４）撮影いただく防災活動の内容についてはお任せしますが、参考のために以下に事例をお送りします。ご参照願います。
　＊事例A：防災倉庫を開け、中身を外に出さず、そのまま開けたままの状態で保管しているモノの種類や用途や点検方法を担当者が簡単に説明する等
　＊事例B：備蓄食に関して、可能であれば箱から数種類を出し、保管しているモノを選択した理由や備蓄数の理由などを担当者が簡単に説明する等

３．【活動レポート】ＪＰ子どもの森づくり運動【WITHコロナ】秋の活動

ＪＰ子どもの森づくり運動では、今春、コロナ禍の厳しい保育の期間をただ耐えるだけではなく“こんな時だからこそ”をキーワードに「保育力」のスキルアップを目指す期間として、四つの活動を提案させていただきました。『自然・環境体験活動』『園庭緑化運動』『保育防災』、そして『「♪どんぐりえがお」で、どんぐりの絆を体感する活動』の四つです。 新型コロナ感染症下ですので、活動は、提案にご共感いただいた参加園さんと共に慎重に準備して実施されています。園内での活動は先行して実施され、活動の一部は既にご紹介させていただきました。そして10月に入り、いよいよ屋外や園外での活動も始まりました。そんな活動を、「子森通信」の今月号から順にご紹介させていただきます。ここで紹介される活動事例が、皆様の保育の参考になれば幸いです。

「自然・環境体験講座全国キャラバン2020」レポート１

“こんな時だからこそ“をテーマに、「外遊び」や自然・環境体験活動のスキルアップを目指そうという保育者を対象に、2020年度も**「自然・環境体験講座全国キャラバン」**が全国で開催されました。以下、ダイジェストですが活動をレポートします。活動の詳細は、ホームページをご覧下さい。

【広島県「春日野まごころ保育園」】

・日時：2020年10月6日(火) ・場所：保育園裏山

・レポート（子森ネット塚原インストラクター）

●屋外でのびのびと自由に遊ぶことは、子どもの発達にとって必要不可欠なことです。子どもたちの健やかな成長を目的とした五感を刺激しながら楽しく遊べるネイチャーゲームの実践と活用方法の講座を行いました。●まずは、園児達と一緒に裏山で、・ノーズ・森の色合わせ・フィールドビンゴ、ネイチャーゲームを行いました。参加した園児達は森の中を駆け回り、様々な色や形などを探していました。●終了後、園内で保育士さんを対象にネイチャーゲームの活用方法について座学を行い、今後の保育に活用していただくためのノウハウを学んでいただきました。

【香川県「丸亀ひまわりこども園」】

・日時：2020年10月7日（水）

・場所：「亀山城」の公園内および園庭

・レポ―ト（子森ネット塚原インストラクター）

●ネイチャーゲームによって、「楽しさは学ぶ力」という考え方から「自然とふれあうことの楽しさ」「自然とふれあいながら人と人とがつながることの喜び」を感じとることができます。●今季はゲームの実践とやり方について講座を開催しました。今回のゲームはネイチャーゲームの「ノーズ」と「森の色合わせ」「フィールドビンゴ」です。園児たちは、探検ルーペを使って、森の中にあるたくさんの色を探しながら、ビンゴカードに書かれた草花や虫なども見つけていました。●ゲームを楽しみながら五感が刺激されて、子どもたちの満足そうな笑顔が印象的でした。

４．【事務局からのお知らせ】「東北復興グリーンウェイブ2020」東北のどんぐりを拾って届ける活動中止

「東北復興グリーンウェイブ」における、東北の“どんぐり”を拾って全国の参加園にお届けする活動は、コロナ禍の事情で、2020年秋に限り、中止とさせていただくことになりました。来年は実現するために、一刻も早くコロナ禍が収束することを心より願っております。

５．「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2020年10月号）

「園庭緑化運動」の普及を目的に、園庭緑化（改善）についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載しています。「子森通信」10月号から12月号は、「学校・園庭ビオトープ」の普及を推進されておられる**（公財）日本生態系協会の田邊龍太さん**にお願いしました。一回目から、とても興味深い内容です。

子どもたちに自然を　～園庭の自然化による教育・保育の可能性

（公財）日本生態系協会　教育研究センター長　田邊龍太

■はじめに

子どもに自然との触れあいを積極的に促していくためには、まず子どもの身近に自然を確保することが欠かせません。この解決策として、ドイツをはじめ国内外では、園庭の自然化、言い換えれば「園庭ビオトープ」の設置が進められています。限られた面積であっても草地や樹林、水辺を創出することでカマキリやクワガタ、トンボなどが訪れるようになるなど、子どもたちにとっては様々な発見や体験の場となります。今月から３回は、この園庭ビオトープの魅力等についてお話しします。

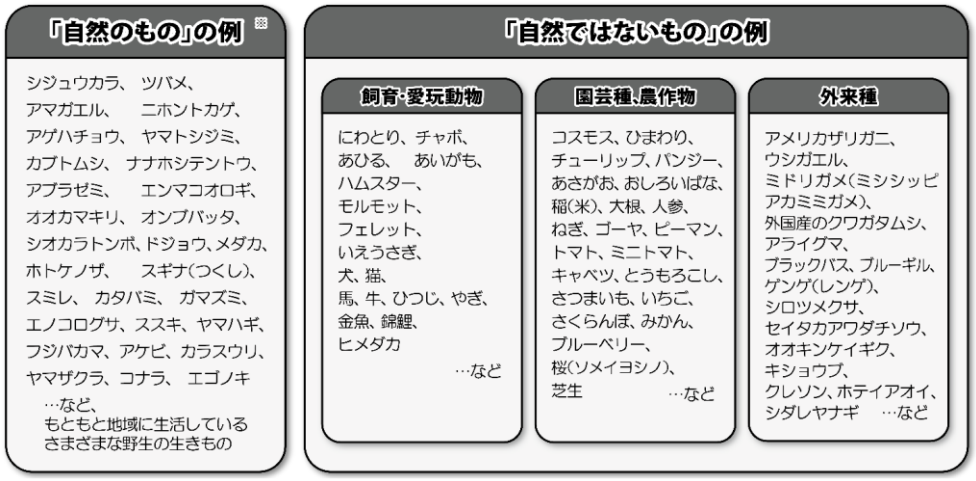
■「緑化」と「自然化」のちがい

園庭ビオトープのお話しを進めるにあたり、まず、緑化と自然化のちがいについて触れておきます。一般的に、緑化とは、木や草を植えて緑を増やすことと説明されます。では、ここでいう「自然化」とは？大きなちがいは、植える植物の選び方です。自然化では、植物を園がある地域の「自然のもの」から複数選び、草地や樹林、水辺など設置する環境のタイプに応じて植えます。自然化は、もちろん緑化のひとつです。緑化という言葉の概念が広いことから、誤解を招かないよう、ここではあえて自然化という言葉を用いて話しを進めます。

自然化をすることで、子どもたちは、園庭にいながら、地域本来の自然の四季の変化を垣間見ることができます。また、多様な種類の生きものと出会う機会が増えます。なぜなら、バッタやチョウなど草食性の昆虫の多くは、地域在来の木や草を選んで食べているからです。草食性の昆虫が増えれば、カマキリやトカゲなどの肉食性の生きものもくらしやすくなります。

自然化のためには、地域の自然について理解を深めておく必要があります。といっても、どう勉強していいかわからないという方も多いかと思います。こうしたときに、私たちのような自然やビオトープの専門組織との連携が考えられます。

次回は、当協会が催している全国学校・園庭ビオトープコンクールの受賞事例をご紹介します。



※この「自然のもの」の例は、主に関東地方の平野部を基準としたものです。日本の自然は実に多様で、同じ種であっても地域によっては「自然ではないもの」になってしまう場合がありますので、まずはご自身の済む地域の自然について調べてみましょう。【図表提供・文：（公財）日本生態系協会】

※information：（公財）日本生態系協会
当協会では、自然を保全・再生し、その自然が有する恵みを地域振興、防災や減災、教育や保育等に生かすことができるよう、政策提案や調査研究、モデル事業のコーディネートを行っています。教育・保育の分野では「全国学校・園庭ビオトープコンクール」を隔年で開催し、学校・園庭ビオトープの普及を図っています。詳しくは協会ホームページをご覧ください。